

令和7年12月15日付【日本水道新聞】

## <人材確保策焦点に> 国交省と意見交換



国交省上下水道審議官Gの幹部と面談



石井上下審(左)に中西会長が手交

水コン協側は中西会長、会員、細瀬元副会長ら  
が出席。上下水道審議官、内閣府審議官、本  
田廣秀大臣官房参事官(上下水道技  
術委員会長)、吉澤正安・上下水道審議官、  
津森義行・大臣官房参事官が出席。中  
西会長が上下水道事業の持続化に向けた事業執行  
の課題などを三つのテーマを取りまとめた提案書  
を石井・中西に手交した。

意見交換会の冒頭、中  
西会長は「八潮市の道路  
陥没事故、中津川での導  
水管破損による大規模断  
水事故と上下水道設  
老朽化が顕在化」について  
いる。そうした状況も踏  
まえ、協会として地域を  
支える水インフラマネジ  
メントの実践に向け新たな  
ビジョンを策定したと  
ころだが、水コンサルタ  
ント業界では担い手確  
保技術継承が課題にな  
つている」と言及。企業

水コン協

# 人材確保策焦点に 国交省と意見交換

全国上下水道コンサルタント協会(中西新会長)は14日、国土交通省上下水道審議官グループ幹部と意見交換を行った。上下水道整備・施設の更新・維持管理予算の確保や、上下水道システムの耐震対策推進、流域総合水管理実現のための積極的な支援、そしてウォーターPDPをはじめとする民間運営の導入支援強化等の課題について意見を交わしたほか、人材確保策に関する考え方にも言及した。

石井上下審は「沖縄県での導水事故は大雨後には断水が解消されるなど確実化の効果が示されると感じた。今年は上下水道事故が相次ぎ、期待を語った。

水道事故が相次ぎ、国民の上下水道への関心・懸念が高まった。懸念を払拭するためにも老

朽化・耐震化をしっかり支援していく必要がある。第1次国土強靭化施中期計画に上下水道構造改革を多段階で取り組んでおり、令和8年度予算概要においても(実施中計に対応した新規制度などを)盛り込んだ」と述べた。

及。また「八潮市の事故は、国民一人ひとりが上下水道の老朽化を自分事化するきっかけとなったが、一過性となつてはいけない。老朽化のリアルな実感を見る化することで国民の関心を持続化するにむつななり、それが人材確保、予算確保につながる」と説明し、国として財政支援と見える化の取組みに注力していき考えを示した。

側の立場としては満足な結果を収めることができた企業や業界の魅力向上、ひいては人材確保の呼び水にもなるとの考え方のもと、国に対して来年度予算の増額確保に期待を語った。

石井上下審は「沖縄県での導水事故は大雨後には断水が解消されるなど確実化の効果が示されると感じた。今年は上下水道事故が相次ぎ、期待を語った。

水道事故が相次ぎ、国民の上下水道への関心・懸念が高まった。懸念を払拭するためにも老

朽化・耐震化をしっかり

支援していく必要があ

る。第1次国土強靭化

施中期計画に上下水道構

造改革を多段階で取り組んで

おり、令和8年度予算概

要においても(実施中計に対応した新規制度などを)盛り込んだ」と述べた。

及。また「八潮市の事故は、国民一人ひとりが上下水道の老朽化を自分事化するきっかけとなったが、一過性となつてはいけない。老朽化のリアルな実感を見る化することで国民の関心を持続化するにむつななり、それが人材確保、予算確

保につながる」と説明し、国として財政支援と見え

るので取組みに注力して

いき考えを示した。